

I 久留米市幼保小合同研修推進事業について

1 事業の目的、推進体制

○目的

本市における幼児保育教育の資質向上及び幼児の健全育成に資するため、幼稚園・保育所・小学校（以下「幼保小」という。）の連携強化に努め、保育教育の一貫性を目指した専門的、総合的な事業を推進する。

事業目的を達成するため、幼保小及び関係者の代表により組織された幼児教育研究推進委員会が中心となって事業を推進し、幼児教育研究所が事務局となり取りまとめを行う。

幼児教育研究推進委員会は別途会則により組織する。

2 久留米市の幼保小合同研修の経緯

平成22年度に、ワーキングチームによる検討を行い、「率直に意見交流をし合い、本音を出しやすい規模の実施形態への転換」「地域（ブロック）の実態に応じた実践」「幼保小連携に関する課題の共有及び3年間の実践研究の継続」の必要性を確認した。

このことをもとに、23年度から3～4年の期間で研修を進めてきている。

【令和4年度の実績】

[成果○と課題●]

1 幼保小連携に係る現状分析と課題の共有

○ 各ブロックで現状を分析し、課題を共有することができた。

2 映像資料等を活用した実践事例に係る協議

○ 全ブロックにおいて映像資料等を活用して協議することができた。

● 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に即してはいるが、形骸化している面がある。

● 「個の学び、育ち」への丁寧な見取りをする必要がある。

3 「幼保小接続カリキュラム」の素案構築

○ 「接続カリキュラム」の素案構築にあたって必要なことを、整理することができた。

● 素案構築には至っていない。

3 実践研究の実際

(1) 研究の目的

就学後の環境の変化に対する戸惑いを軽減し、幼児が幼稚園・保育所生活を通して学んできたものを十分に発揮し、小学生としてのさらなる成長を果たすことができるよう、幼保から小学校への円滑な移行のあり方を構築していく。

(2) 研究の内容

① 幼保小連携の取組の基盤となる「めざす子ども像」の共有や現状分析の実施、及び実践の成果に係る検証

② 幼児期と児童期を滑らかにつなぐ接続カリキュラムの構築と試行

(3) 研究の方法

6ブロック制から成る小学校区と近接する幼稚園・保育所とを組み合わせたブロック別研究組織を構築し、実践的に研究を推進する。推進委員（所属長等）及び連携担当者を中心にブロック別研修を推進するとともに、研究推進委員会や幼保小合同研修会において研修成果の共有化を図る。実践の成果については、市内の全幼稚園、保育所、小学校に対して情報提供を行い、汎化を促す。

(4) 研究の計画

研究テーマ「幼保小の連携・接続を推進する接続カリキュラムの構築（3か年計画）」

| 年次 | 内容 |
|------------|--|
| 1年次（令和4年度） | ・幼保小連携に係る現状分析と課題の共有 ・映像資料等を活用した実践事例に係る協議 ・「幼保小接続カリキュラム」の素案構築 |
| 2年次（令和5年度） | ・幼保小の・連携・接続を意識した取組の実践 ・「個の学び・育ち」に焦点化した協議の深化、及び各取組における「個の学び・育ち」の検証 |
| 3年次（令和6年度） | ・「幼保小接続カリキュラム」としての実践事例集の作成 ・実践を通じた3か年の検証と総括、次期取組の検討 |

(5) 研究推進組織

【推進委員会】

- ・市内の幼・保・小の連携強化、保育・教育の一貫性をめざした事業を推進する。
R5は役員として、委員から校長等3名、幼稚園園長1名、保育所園長2名を選出する。

【ブロック連携園長校長会】

- ・ブロックにおける研究・実践の方向性の決定、取組の進行管理、取りまとめとブロック連携担当者会の運営を行う。
- ・推進委員として、校長1名、幼稚園園長1名、保育所園長2名を選出し、うち1名のブロック推進代表者を互選する。

【ブロック連携担当者会】

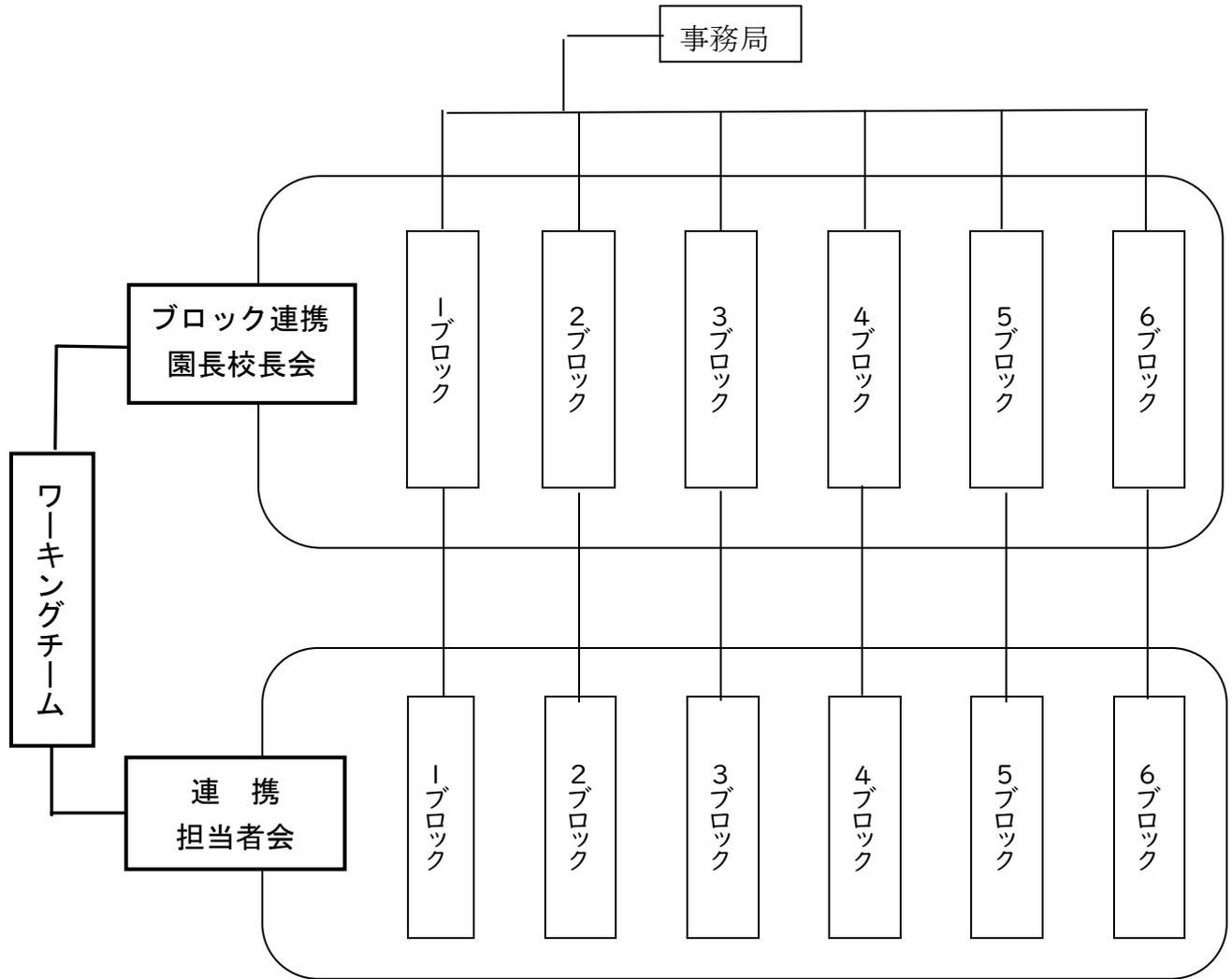
- ・ブロック内の具体的な連携の推進と、テーマに沿った協議、取りまとめを行う。
- ・各ブロックの幼児教育研究推進委員が中心となって運営する。

【ワーキングチーム】

- ・委員長が委員の中から指名し、研究の推進に必要な調査及び記録等に係る様式等を検討、作成する。

【研究推進組織図】

幼児教育研究推進委員会(28名)
 各ブロック連携園長校長会の幼稚園代表園長1名、保育所代表園長2名、小学校代表校長1名、幼児教育研究所(3名)で組織する。
 (1ブロック4名×6ブロック)+(小学校教頭会1名)+(幼児教育研究所3名)



※ 幼児教育研究所は事務局として事業全体のとりまとめを行う。

(6) 本年度の活動内容

① 目的(テーマ)(案)

幼保小の連携・接続を推進する接続カリキュラムの構築

② 内容

ア 幼保小の連携・接続を意識した取組

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した実践そのものを「連携・接続を意識している姿」と捉える。

イ 接続

「個の学び・育ち」に焦点化した協議の深化及び各取組における「個の学び・育ち」の検証

③ 方法

1年次の成果と課題を踏まえ、各ブロックの園長・校長の共通理解のもと実践の内容と方法を連携担当者会において具体化し、実践を通して2年次の研究の総括を行う。

④ 研究推進計画

| 期日 | 組織 | 活動内容 |
|----------------|--------------------------------|---|
| 4月 | <事務局> | ・研究推進委員確認 ・研究推進組織の確認・研究構想、推進計画の確認 |
| 5月 | 【第1回幼児教育研究推進委員会】 5月23日(火) | ・研究推進委員長決定 ・研究構想及び本年度の活動内容の確認、講師招へい |
| 6月 | 〔第1回ワーキングチーム会議〕 6月上旬 | ・実践の記録シート検討 ・協議の流れ検討 |
| | 【第1回各ブロック連携園長校長会及び各ブロック連携担当者会】 | <各ブロック連携園長校長会> ・取組の方向性、共通取組事項、報告書様式等の確認 ・ビデオカンファレンス等の研修の方途の検討 <各ブロック連携担当者会> ・研修計画の立案 |
| 7月 8月 9月 | 【各施設】 | ●各施設での取組の実施 ・子どもの現状に関する情報の共有 ・子ども及び職員による交流(対面交流又はビデオカンファレンス等) ↓ ・目指す子どもの姿の育成に向けた取組の実施 |
| 10月 | 〔第2回ワーキングチーム会議〕 10月下旬 | ※会議の有無は、各ブロックの進捗状況による。 |
| 11月 | 【第2回幼児教育研究推進委員会】 11月7日(火) | ・各ブロックの取組の進捗状況及び効果的な実践事例の交流、まとめ方の確認 ・幼保小合同研修会(2月)の運営について ・「にじのかけ橋」の内容確認 |
| 12月 | 第2回各ブロック連携園長校長会及び各ブロック連携担当者会 | ・具体的な取組の情報交換 ・取組内容の成果と課題の整理、まとめの作成 |
| 1月 | 【合同研修会リハーサル】 1月29日(月) | ・各ブロックの実践の総括(ブロック報告) |
| | 【幼保小合同研修会】 1月30日(火) | ・参加者による協議 ・連携実践への助言(講師講話) |
| | <事務局> | ・「にじのかけ橋」の発行 |
| 2月 | 【第3回幼児教育研究推進委員会】 2月13日(火) | ・報告書の内容確認 ・2年次全体の取組のまとめ、次年度研究内容の検討 |
| 3月 | <事務局> | ・「研究報告書」の発行 |

Ⅱ 久留米市幼保小合同研修推進事業実績

幼保小合同研修推進事業では、幼児保育教育の資質向上及び幼児の健全育成に資するため、幼稚園・保育所・小学校（以下「幼保小」という。）の連携強化に努め、幼児教育と小学校教育の一貫性を目指した専門的、総合的な事業を推進している。

Ⅰ 幼児教育研究推進委員会（委員25名、事務局3名）

(1) 第1回幼児教育研究推進委員会

【目的】

令和5年度の研究内容や計画、推進組織等について協議を行い、幼保小合同研修推進事業の見直しをもつ。

【日時】 令和5年5月23日（火）14:00～17:00

【会場】 久留米市市民活動サポートセンター みんなる 会議室（くるめりあ内）

【内容】

○令和5年度事業計画について（研究構想及び活動内容の確認）

○講師による講話

「ビデオカンファレンスを活用した『個の学び・育ち』の見取り方や記録の仕方
講師（鳴門教育大学 木下 光二 教授）による講話

(2) 第2回幼児教育研究推進委員会

【目的】

令和5年度後期の幼保小合同研修推進事業について共通理解をはかり、幼保小の保育・教育の連携・接続を推進する。

【日時】 令和5年11月7日（火）15:00～17:00

【会場】 久留米市幼児教育研究所 大会議室

【内容】

○第2回連携担当者会について

○幼保小合同研修会について

○「にじのかけ橋」について

(3) 第3回幼児教育研究推進委員会

【目的】

令和5年度の事業の成果と課題について確認し、令和6年度の事業の方向性を協議する。

【日時】 令和6年2月13日（火）

【会場】 久留米市幼児教育研究所 大会議室

【内容】

○本年度の取組みの課題と成果について

○令和6年度の事業について

○令和5年度の幼保小合同研修推進事業報告書について

2 ブロック連携担当者会

平成23年度より市内を6ブロックに分け、ブロックごとに幼稚園、保育所、小学校等の各施設の代表者による協議の場をもち、地域の実情に即した課題の共有化や幼保小連携のあり方について検討を行ってきた。

(1) 第1回ブロック連携担当者会

| ブロック | 実施期日 | 場所 | 対象者 | 参加者数 |
|------|-------|--------------|--------------|------|
| 1 | 5月19日 | 川会小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 18名 |
| 2 | 6月27日 | 金島ふれあい交流センター | 連携担当者(園長、校長) | 30名 |
| 3 | 6月26日 | えーるピア久留米 | 連携担当者(園長、校長) | 37名 |
| 4 | 6月23日 | 京町小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 40名 |
| 5 | 7月26日 | 大善寺小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 29名 |
| 6 | 6月20日 | 三潕生涯学習センター | 連携担当者(園長、校長) | 23名 |
| 参加者数 | | | | 177名 |

(2) 第2回ブロック連携担当者会

| ブロック | 実施期日 | 場所 | 対象者 | 参加者数 |
|------|--------|-------------|--------------|------|
| 1 | 12月11日 | 川会小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 19名 |
| 2 | 1月8日 | 北野町ますかげセンター | 連携担当者(園長、校長) | 31名 |
| 3 | 12月6日 | 幼児教育研究所 | 連携担当者(園長、校長) | 28名 |
| 4 | 11月22日 | 京町小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 34名 |
| 5 | 12月6日 | 大善寺小学校 | 連携担当者(園長、校長) | 26名 |
| 6 | 12月7日 | 三潕生涯学習センター | 連携担当者(園長、校長) | 19名 |
| 参加者数 | | | | 192名 |

3 幼保小合同研修会

久留米市全体で「個の学び・育ちを見取る力」を高めることねらいとして、久留米市の2実践(ゆりかご保育園と竹野小学校)と講師の実践についてビデオカンファレンスを実施した。

鳴門教育大学 木下 光二 教授の指導や参会者の協議、発言を通して、幼保小連携・接続の更なる充実を図った。

【日時】 令和6年1月30日(火)14:30~

【参加者】 152名

(各幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校の連携担当者及び希望する所属長、幼児教育研究推進委員)

【場所】 久留米市環境交流プラザ 大会議室(宮ノ陣町)

【内容】

○久留米市代表による実践のビデオカンファレンス

○講師による実践のビデオカンファレンス

※幼保小合同研修会リハーサルは第2回幼児教育研究推進委員会で不要の判断をし、実施しなかった。

4 ワーキングチーム会議

(1) 第1回

【日時】 令和5年6月12日(月)15:00~

【参加者】 幼児教育研究推進委員会の委員長、副委員長、事務局

【場所】 幼児教育研究所 大会議室

【内容】

- 第1回連携担当者会について(進め方、協議の柱)
- 実践記録シートについて
- 幼保小合同研修会の持ち方について

(2) 第2回

【日時】 令和5年11月1日(水)15:00~

【参加者】 幼児教育研究推進委員会の委員長、副委員長、事務局

【場所】 幼児教育研究所 小会議室

【内容】

- 第2回連携担当者会について(流れ、ビデオカンファレンスの進め方、報告書)
- 幼保小合同研修会について(内容、方法、講話、アンケート)
- 第2回幼児教育研究推進委員会の役割分担について